

2011年 京都府感染症発生動向調査 (患者発生動向)

— 定点把握感染症 —

中山 淳一郎 真田 正稔

Annual Report of Infectious Disease Surveillance from Sentinel Hospitals in Kyoto Prefecture, 2011

Junichirou NAKAYAMA Masatoshi SANADA

京都府内の感染症発生動向調査の定点把握感染症について、2011年の第1週から52週の発生動向の概要を報告した。2011年の年間定点あたりの報告数は感染性胃腸炎269人、インフルエンザ175人、手足口病92人、水痘46人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎43人の順に多かった。基幹病院定点報告では、マイコプラズマ肺炎107人、無菌性髄膜炎4人、細菌性髄膜炎4人、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症103人の報告があった。性感染症定点報告では、性器クラミジア感染症は510人(定点あたり22.1人)、性器ヘルペスウイルス感染症166人(定点あたり7.2人)、尖圭コンジローマ52人(定点あたり2.3人)、淋菌感染症は85人(定点あたり3.7人)の報告があった。

キーワード：感染症、京都府、調査、定点

key words : Infectious disease, Kyoto, Surveillance, Sentinel clinics

はじめに

1999年4月から、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」の施行により、感染症発生動向調査事業が実施されている。京都府では、保健環境研究所内に感染症情報センターを設置し、医療機関から保健所に報告された感染者の発生動向情報を集計し、解析した結果を毎週公開している*1。

感染症法では五類感染症のうち、26の感染症が定点把握感染症と定められている。各地域の人口割合に応じて指定された定点(指定届出医療機関)から、これら定点把握感染症の患者数が週単位、あるいは月単位で保健所に報告され、地域の感染症の流行状況が迅速に把握できるサーベイランスとなっている。

今回、2011年第1週から52週までに報告され、2012年3月までに確定した定点把握疾患感染症の感染者情報をもとにその概要をまとめ、報告する。

材料と方法

感染症発生動向調査システム(NESID:National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases)に集計され、2012年3月までに確定した2011年第1週から52週までの定点把握感染症の情報を使用した。インフルエンザ定点報告ではシーズンの流行を明らかとするため、一部で2012年17週までのデータを使用した。指定届出医療機関(定点)は、把握対象感染症によりインフルエ

ンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹病院定点及び性感染症(STD)定点の5種類に分類されている。京都府の保健所別の定点数の一覧を表1に示した。週単位でインフルエンザ定点からはインフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)、小児科定点からは咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、

表1. 京都府の指定届出医療機関(定点)一覧

保健所名	定点種別				
	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹病院	STD
乙訓	7	4	1	1	1
山城南	5	3	1	1	1
中丹西	5	3	1	1	1
山城北	15	9	2	0	3
南丹	9	5	1	1	2
中丹東	7	4	0	0	1
丹後	5	4	1	1	1
京都市					
北	7	4	1	0	1
上京	5	3	1	0	1
左京	6	3	1	0	1
中京	5	3	2	1	2
東山	3	2	0	0	1
山科	7	4	1	0	1
下京	3	2	0	0	1
南	5	3	0	0	1
右京	7	4	1	0	1
伏見	11	7	2	0	2
西京	7	4	1	0	1
京都市以外	53	32	7	5	10
京都市	66	39	10	1	13
京都府	119	71	17	6	23

(平成24年7月31日受理)

*1 京都府感染症情報センターホームページ

<http://www.pref.kyoto.jp/idsc/>

百日咳、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、RSウイルス感染症、眼科定点からは急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、基幹病院定点からはマイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)の発生が報告され、月単位でSTD定点からは性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症、基幹病院定点からはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター(平成23年2月1日付け新規追加)の発生が報告されている。報告数は、当該週あるいは月に報告があった定点(患者ゼロ報告を含む)数で患者数を割り戻して定点あたり報告数とした。但し、京都市内と年間の定点あたり報告数については表1の定点数で割り戻し、定点あたり報告数として示した。

結果と考察

1. インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点報告

毎週報告がある感染症別の定点あたりの患者報告数を2011年の週ごとに表2に示した。2011年の年間定点あたりの報告数は感染性胃腸炎269人、インフルエンザ175人、手足口病92人、水痘46人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎43人の順に多かった。2009年はインフルエンザ547人、感染性胃腸炎240人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎42人、水痘40人、流行性角結膜炎21人の順で多く²⁾、2010年は感染性胃腸炎321人、水痘59人、流行性耳下腺炎47人、手足口病43人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎40人の順に多かった¹⁾。2011年に多く報告された定点把握感染症で過去10年間の発生推移を全国の報告値とともに図1に

示した。

2011年の冬季の感染性胃腸炎は、2009、2010年と比べて大きな流行となった。夏季の流行に比べ、特に冬季の流行の方が大きくなる傾向がみられた。表3に感染性胃腸炎の小児科定点あたりの年齢別報告数を示した。4歳以下の患者が全体の約半数、14歳以下で80%を占めた。一般に乳幼児における感染性胃腸炎はウイルスが主原因になることが多く、特に乳児のウイルス性胃腸炎は症状進行が早く、重症化することもあり注意が必要である。表4に保健所別の小児科定点あたりの報告数を示し、図2に京都府管轄保健所別の2011年の週別推移を示した。保健所管内ごとに報告数が大きく異なり、感染性胃腸炎は地域により流行の大きさに差があり、その流行時期もずれることが確認されたが、季節消長ではおおむね一致していた。

2011-2012年シーズンのインフルエンザは、5-10週に定点あたり患者数のピークがあり、新型インフルエンザ(現在は、季節性インフルエンザA/H1N1pdm09)が流行した2009年を除いた近年における発生傾向は同じであった(図3)。しかし、患者報告数は2010-2011年シーズンの4.5倍と過去10年間で2番目に多く、注意報発令後直ちに警報が9週間継続する事態に発展した。この背景には、抗原変異やワクチン株が大きく関与していると考えられた。また、2010-2011年シーズンの流行期間は注意報が4週程度と短く、2011-2012年シーズンと比較すると、半分程度の短い期間であった¹⁾。

手足口病は夏に流行のピークがみられる小児の感染症であるが、2011年は京都府内で第26週(6/27~7/3)に8年ぶりに警報レベルに達した。過去に流行のあった2008年及び2010年の3倍以上の患者数であった(図1)。

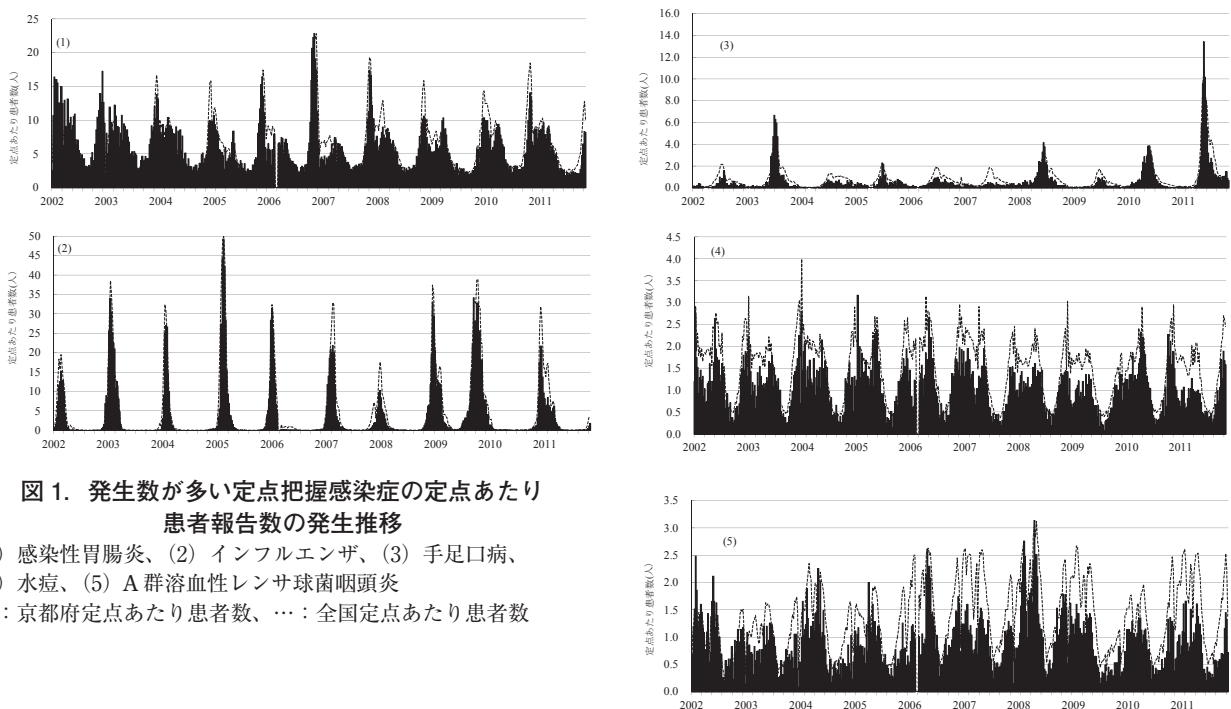


図1. 発生数が多い定点把握感染症の定点あたり患者報告数の発生推移

- (1) 感染性胃腸炎、(2) インフルエンザ、(3) 手足口病、(4) 水痘、(5) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■：京都府定点あたり患者数、…：全国定点あたり患者数

表2. 2011年京都府 定点把握感染症の定点あたり患者報告数の週別推移

週	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群*	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	3.35	0.59	0.15	0.62	6.51	1.96	0.00	0.27	0.34	0.00	0.00	0.79	0.00	1.06
2	8.89	0.42	0.01	0.63	8.86	1.54	0.08	0.35	0.45	0.01	0.04	0.80	0.00	0.41
3	17.90	0.37	0.07	0.93	8.87	1.11	0.07	0.34	0.31	0.00	0.00	0.35	0.00	0.53
4	22.23	0.34	0.10	0.94	8.94	1.03	0.15	0.27	0.25	0.00	0.01	0.55	0.00	0.71
5	21.54	0.23	0.13	1.08	7.58	0.85	0.04	0.27	0.31	0.01	0.00	0.34	0.00	0.71
6	14.10	0.11	0.04	0.70	8.32	0.76	0.03	0.31	0.38	0.00	0.00	0.48	0.06	0.76
7	9.89	0.10	0.10	0.86	8.70	0.77	0.01	0.32	0.39	0.00	0.00	0.45	0.00	0.71
8	8.23	0.10	0.18	1.11	8.39	0.63	0.07	0.44	0.27	0.06	0.00	0.23	0.06	0.65
9	6.32	0.07	0.13	1.63	8.82	1.01	0.06	0.32	0.27	0.00	0.07	0.38	0.00	0.53
10	6.72	0.04	0.10	1.14	9.58	1.01	0.06	0.37	0.20	0.01	0.01	0.30	0.00	0.29
11	8.70	0.07	0.08	1.70	9.93	1.10	0.06	0.32	0.37	0.00	0.00	0.39	0.00	0.29
12	6.62	0.01	0.10	0.93	7.80	0.73	0.03	0.31	0.44	0.00	0.03	0.28	0.00	0.12
13	6.23	0.10	0.06	0.93	8.20	0.61	0.03	0.34	0.37	0.00	0.00	0.39	0.00	0.29
14	3.91	0.00	0.17	0.76	7.59	0.63	0.00	0.31	0.44	0.01	0.01	0.25	0.00	0.35
15	4.90	0.03	0.17	0.85	9.06	0.83	0.08	0.39	0.46	0.01	0.00	0.35	0.00	0.24
16	5.95	0.07	0.15	1.58	9.24	1.07	0.03	0.39	0.42	0.01	0.03	0.34	0.00	0.29
17	6.43	0.07	0.20	0.94	8.32	0.83	0.00	0.51	0.31	0.00	0.00	0.27	0.06	0.00
18	3.13	0.04	0.13	0.63	5.76	1.07	0.06	0.42	0.28	0.00	0.00	0.35	0.12	0.18
19	2.06	0.06	0.06	1.13	6.32	1.31	0.13	0.55	0.34	0.06	0.03	0.44	0.00	0.71
20	1.34	0.00	0.28	0.97	6.23	1.04	0.24	0.48	0.59	0.04	0.10	0.49	0.00	0.65
21	0.98	0.06	0.17	1.30	5.76	0.99	0.27	0.45	0.54	0.01	0.28	0.41	0.00	1.00
22	0.87	0.01	0.32	1.68	4.97	1.00	0.72	0.61	0.37	0.00	0.32	0.61	0.00	0.35
23	0.31	0.00	0.54	1.44	5.20	0.85	1.13	0.66	0.58	0.00	0.48	0.59	0.06	0.76
24	0.19	0.01	0.54	1.18	4.15	0.99	1.69	0.82	0.62	0.06	0.97	0.83	0.00	0.41
25	0.04	0.07	0.63	1.30	4.23	1.04	3.03	1.14	0.61	0.03	1.59	0.86	0.00	0.41
26	0.08	0.00	0.51	1.06	2.93	0.75	5.96	0.75	0.34	0.04	2.20	0.55	0.00	0.53
27	0.05	0.01	0.75	0.73	2.65	0.96	9.99	0.54	0.38	0.01	3.68	1.10	0.00	0.65
28	0.02	0.00	0.70	0.38	2.90	0.72	13.41	0.66	0.45	0.01	4.32	0.69	0.00	0.65
29	0.03	0.03	0.52	0.42	2.61	0.49	10.45	0.37	0.45	0.00	2.27	0.62	0.00	0.76
30	0.01	0.04	0.61	0.34	2.54	0.48	8.24	0.59	0.42	0.00	2.58	0.59	0.06	1.00
31	0.03	0.04	0.73	0.21	2.72	0.45	5.82	0.32	0.51	0.01	1.61	0.37	0.00	0.59
32	0.00	0.04	0.63	0.45	1.83	0.52	3.21	0.25	0.48	0.00	1.03	0.23	0.00	0.29
33	0.00	0.03	0.14	0.25	1.54	0.52	2.28	0.18	0.34	0.01	0.66	0.34	0.00	0.65
34	0.02	0.06	0.42	0.38	2.34	0.52	2.39	0.20	0.49	0.03	0.62	0.63	0.00	0.35
35	0.02	0.15	0.17	0.34	1.87	0.37	2.75	0.18	0.42	0.00	0.61	0.52	0.00	0.53
36	0.00	0.10	0.24	0.25	2.20	0.39	2.31	0.20	0.52	0.03	0.41	0.34	0.06	0.29
37	0.00	0.17	0.24	0.32	2.00	0.37	1.66	0.17	0.34	0.00	0.51	0.65	0.00	0.47
38	0.02	0.23	0.15	0.27	1.96	0.48	1.17	0.11	0.30	0.00	0.30	0.23	0.00	0.47
39	0.03	0.34	0.06	0.52	2.37	0.25	1.31	0.23	0.28	0.03	0.21	0.62	0.00	0.41
40	0.04	0.21	0.06	0.58	2.37	0.34	1.13	0.14	0.27	0.00	0.13	0.38	0.00	0.53
41	0.03	0.30	0.01	0.56	2.18	0.44	0.99	0.13	0.30	0.00	0.11	0.39	0.06	0.29
42	0.06	0.32	0.03	0.45	2.27	0.68	1.03	0.11	0.46	0.00	0.10	0.69	0.00	0.41
43	0.02	0.46	0.06	0.56	1.99	0.70	0.61	0.10	0.45	0.01	0.06	0.30	0.00	0.47
44	0.03	0.48	0.14	0.59	2.13	0.99	0.92	0.15	0.38	0.01	0.03	0.44	0.00	0.65
45	0.05	0.44	0.06	0.61	2.11	0.77	0.68	0.11	0.46	0.03	0.07	0.38	0.00	0.59
46	0.07	0.41	0.06	0.70	2.08	0.99	1.06	0.10	0.24	0.00	0.07	0.25	0.00	0.29
47	0.08	0.52	0.10	0.69	2.76	1.08	1.06	0.08	0.39	0.00	0.01	0.34	0.00	0.24
48	0.09	0.45	0.13	0.66	3.30	1.72	1.10	0.14	0.49	0.01	0.04	0.42	0.00	0.59
49	0.17	0.56	0.07	1.20	4.90	1.31	1.08	0.07	0.31	0.00	0.04	0.32	0.00	0.12
50	0.43	0.58	0.08	1.49	6.69	1.94	1.54	0.23	0.32	0.00	0.01	0.38	0.00	0.12
51	1.10	0.27	0.06	1.37	8.58	1.72	0.90	0.15	0.38	0.00	0.03	0.34	0.06	0.06
52	1.81	0.48	0.10	0.73	8.28	1.61	0.69	0.06	0.31	0.01	0.00	0.25	0.00	0.06
計	175.08	9.69	11.42	43.10	269.41	46.31	91.76	17.28	20.38	0.61	25.68	23.87	0.59	24.47

* : A群溶血性レンサ球菌咽頭炎, 計 : 総報告数を表1の定点数で割り戻し、年間の定点あたり報告数とした。

表 3. 感染性胃腸炎の小児科定点あたりの年齢別報告数

年齢階級区分	京都府			全国		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
～5ヶ月	3.7 (1%)	1.5 (1%)	2.2 (1%)	3.5 (1%)	1.9 (1%)	1.6 (1%)
～11ヶ月	18.3 (5%)	11.7 (7%)	6.6 (4%)	21.3 (7%)	11.5 (7%)	9.8 (7%)
1才	54.2 (16%)	30.8 (17%)	23.4 (15%)	48.6 (15%)	26.3 (16%)	22.3 (15%)
2才	41.0 (12%)	22.7 (13%)	18.3 (12%)	36.0 (11%)	19.3 (12%)	16.7 (11%)
3才	31.5 (9%)	14.6 (8%)	16.8 (11%)	32.4 (10%)	17.6 (11%)	14.8 (10%)
4才	22.0 (7%)	10.3 (6%)	11.7 (7%)	29.7 (9%)	16.0 (10%)	13.8 (9%)
5才	19.0 (6%)	11.7 (7%)	7.3 (5%)	24.8 (8%)	13.5 (8%)	11.3 (8%)
6才	15.4 (5%)	9.5 (5%)	5.9 (4%)	19.2 (6%)	10.4 (6%)	8.8 (6%)
7才	11.7 (3%)	6.6 (4%)	5.1 (3%)	15.2 (5%)	8.3 (5%)	6.9 (5%)
8才	17.6 (5%)	11.0 (6%)	6.6 (4%)	12.7 (4%)	7.0 (4%)	5.7 (4%)
9才	7.3 (2%)	5.9 (3%)	1.5 (1%)	10.5 (3%)	5.9 (4%)	4.6 (3%)
0～4才*	171 (51%)	91.5 (51%)	79.1 (50%)	171 (55%)	92 (56%)	79 (53%)
5～9才*	71.0 (21%)	44.7 (25%)	26.4 (17%)	82 (26%)	45.0 (27%)	37.0 (25%)
10～14才	26.4 (8%)	13.2 (7%)	13.2 (8%)	26.6 (8%)	15.1 (9%)	11.5 (8%)
15～19才	11.0 (3%)	5.1 (3%)	5.9 (4%)	5.5 (2%)	2.7 (2%)	2.8 (2%)
20才以上	58.6 (17%)	24.9 (14%)	33.7 (21%)	28.2 (9%)	9.9 (6%)	18.3 (12%)

京都府の年間の合計は、定点数を71として、1定点あたり1年間の患者報告数を示した。

*：データ再掲

表 4. 2011年感染性胃腸炎の小児科定点あたりの保健所別報告数

		総数	男性	女性
京都府管轄保健所	乙訓	518	276	242
	山城南	18.0	10.7	7.3
	中丹西	335	165	170
	山城北	247	129	118
	南丹	258	122	136
	中丹東	493	246	247
	丹後	112	55.5	56.0
小計	1980	1003	976	
京都市保健所	北	71	44.0	27.0
	上京	162	89	73
	左京	90	43.0	47.0
	中京	284	168	116
	東山	455	236	219
	山科	111	66.0	44.8
	下京	13.5	9.5	4.0
	南	553	300	254
	右京	265	131	135
	伏見	291	152	139
西京	553	290	264	
小計	2849	1528	1321	

患者は1、2才を中心に4才以下が82%であった。

水痘の発生は年ごとの患者数に大きな変動はなく、毎年冬季から春季にかけて流行がある(図1)。水痘は患者の78%以上が4才以下であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、毎年小児科定点からの報告数が多い感染症のひとつであるが、2010年はやや少ない報告数であった(図1)。患者は4才以下が27%、5～9才が50%であった。

2. 基幹病院定点報告

基幹病院定点から報告される7感染症中、マイコプラズマ肺炎107人、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症103人、薬剤耐性緑膿菌感染症5人、無菌性髄膜炎及び細菌性髄膜炎の報告数が4人であった。2011年京都府で

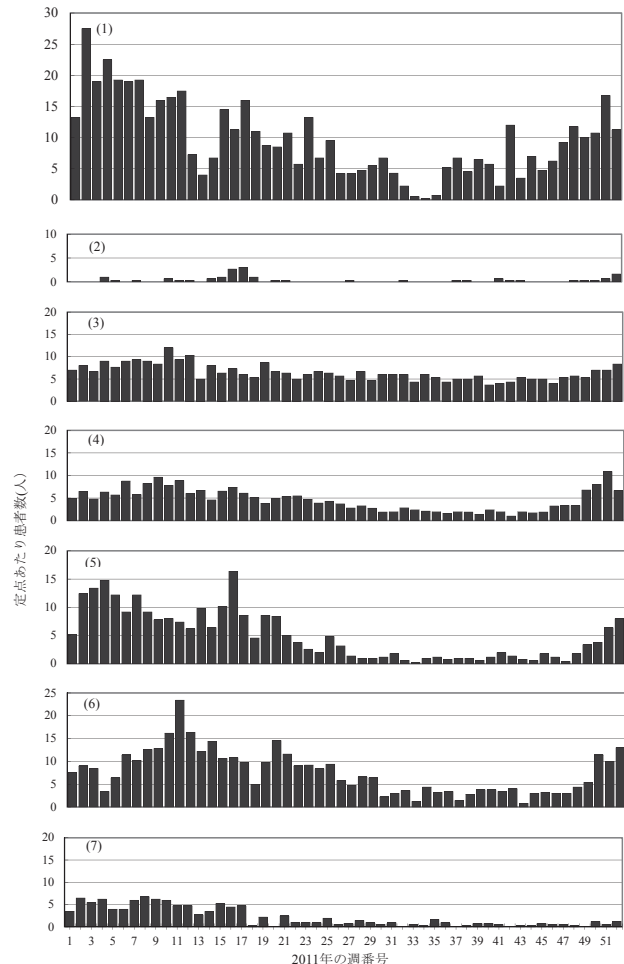


図 2. 2011年感染性胃腸炎の小児科定点あたりの保健所別週別の報告数の推移

- (1) 乙訓 (2) 山城南 (3) 中丹西 (4) 山城北 (5) 南丹 (6) 中丹東 (7) 丹後

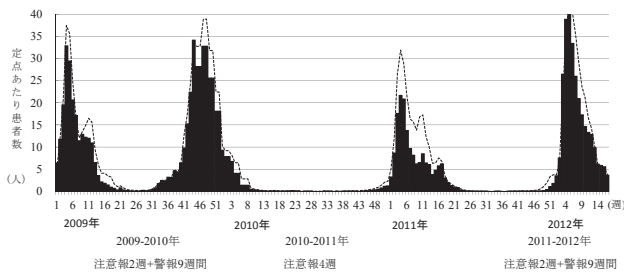


図3. インフルエンザの流行シーズンの推移 (最近3シーズン)

■：京都府定点あたり患者数、…：全国定点あたり患者数
 定点あたり報告数は2012年17週までの数値を用いた。

のマイコプラズマ肺炎は、15才未満が97%を占め、男女の差は見られなかった。全国においてもほぼ同様の傾向を示した(表5)。また、2011年に比べて、2010年の京都府の報告数はわずか4人であった²⁾。全国的に、2011年6月(第25週)以降、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は1999年の発生動向調査開始以来の高水準が続き、2011年第49週にピークを迎え、その後減少傾向となっ

ていたが、現在も高水準を維持している³⁾。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の発生状況を男女別年齢階級別に表6に全国の集計結果とともに示した。患者報告はすべて、南丹・中丹西・丹後保健所管内の定点からで、乙訓・山城南・山城北と京都市の4定点からの報告はなかった。男性の報告数は女性の約1.8倍で、乳幼児あるいは高齢者に多く、全国の傾向と一致していた。

薬剤耐性緑膿菌感染症は、全国でやや増加傾向にあり、京都府では5人の報告があった。通常、この感染症は高齢者の報告が多く見られる。

無菌性髄膜炎は主にエンテロウイルスを原因とする感染症であり、男児にかかりやすい傾向にある。京都府での報告は、4人中3人が9才以下の男児であり、うち2人がマイコプラズマ(*Mycoplasma pneumoniae*)を原因とするものであった。

細菌性髄膜炎は乳幼児にとって、命の危険を伴う疾患であるが、京都府では、1、7、14才の女性3人及び59才男性1人の報告があった。いずれの疾患も全国的には、乳幼児と高齢者に多かった。

表5. 2011年京都府基幹病院定点からのマイコプラズマ肺炎報告(男女別、年齢区分別)と全国集計の比較

	京都府			全国		
	男性	女性	総報告数	男性	女性	総報告数
0才	1 2%	1 2%	2 2%	129 2%	115 1%	244 1%
1～4才	13 24%	13 25%	26 24%	2765 35%	2908 32%	5673 33%
5～9才	24 44%	21 40%	45 42%	2569 33%	2669 29%	5238 31%
10～14才	15 27%	15 29%	30 28%	1330 17%	1371 15%	2701 16%
15～19才	0 0%	1 2%	1 1%	238 3%	286 3%	524 3%
20～24才	0 0%	0 0%	0 0%	92 1%	202 2%	294 2%
25～29才	0 0%	0 0%	0 0%	82 1%	247 3%	329 2%
30～34才	1 2%	1 2%	2 2%	84 1%	285 3%	369 2%
35～39才	1 2%	0 0%	1 1%	74 1%	227 3%	301 2%
40～44才	0 0%	0 0%	0 0%	61 1%	148 2%	209 1%
45～49才	0 0%	0 0%	0 0%	32 0%	79 1%	111 1%
50～54才	0 0%	0 0%	0 0%	26 0%	70 1%	96 1%
55～59才	0 0%	0 0%	0 0%	33 0%	60 1%	93 1%
60～64才	0 0%	0 0%	0 0%	52 1%	69 1%	121 1%
65～69才	0 0%	0 0%	0 0%	46 1%	67 1%	113 1%
70才以上	0 0%	0 0%	0 0%	254 3%	270 3%	524 3%
計	55 100%	52 100%	107 100%	7867 100%	9073 100%	16940 100%

表6. 2011年京都府基幹病院定点からのメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症報告(男女別、年齢区分別)と全国集計の比較

	京都府			全国		
	男性	女性	総報告数	男性	女性	総報告数
0才	5 8%	0 0%	5 0%	541 4%	430 5%	971 4%
1～4才	1 2%	1 3%	2 3%	401 3%	293 3%	694 3%
5～9才	0 0%	0 0%	0 0%	222 2%	125 1%	347 1%
10～14才	1 2%	1 3%	2 3%	75 1%	50 1%	125 1%
15～19才	0 0%	0 0%	0 0%	86 1%	48 1%	134 1%
20～24才	0 0%	0 0%	0 0%	73 0%	67 1%	140 1%
25～29才	0 0%	2 5%	2 5%	89 1%	70 1%	159 1%
30～34才	0 0%	0 0%	0 0%	123 1%	135 2%	258 1%
35～39才	0 0%	1 3%	1 3%	136 1%	108 1%	244 1%
40～44才	1 2%	0 0%	1 0%	222 2%	115 1%	337 1%
45～49才	0 0%	0 0%	0 0%	246 2%	122 1%	368 2%
50～54才	1 2%	0 0%	1 0%	358 2%	160 2%	518 2%
55～59才	3 5%	0 0%	3 0%	534 4%	231 3%	765 3%
60～64才	4 6%	1 3%	5 3%	1064 7%	437 5%	1501 6%
65～69才	5 8%	0 0%	5 0%	1207 8%	491 6%	1698 7%
70才以上	45 68%	31 84%	76 84%	9370 64%	5814 67%	15184 65%
計	66 100%	37 100%	103 100%	14747 100%	8696 100%	23443 100%

3. 性感染症 (STD) 定点報告

STD 定点から報告される4感染症について、2011年の京都府の発生状況を年齢階級別、男女別と定点の診療科別に表7に示した。2011年は、性器クラミジア感染症は510人(定点あたり22.2人)、性器ヘルペスウイルス感染症166人(定点あたり7.2人)、尖圭コンジローマ52人(定点あたり2.3人)、淋菌感染症は85人(定点あたり3.7人)の報告があり、2009年²⁾、2010年¹⁾と同程度の報告数であった。

4感染症とも10代後半から40代前半に患者数が多かった。10代後半から40代前半の年代が占める割合は、淋菌感染症96%(うち男性:95%、女性:100%)、性器クラミジア感染症95%(うち男性:86%、女性:97%)、尖圭コンジローマは92%(うち男性:85%、女性:100%)及び性器ヘルペスウイルス感染症70%(うち男性:79%、女性:69%)であり、性器ヘルペスウイルス感染症は、特に女性感染者の年齢層が広がっていることがわかった。

表7. 2011年京都府性感染症定点からの患者報告数
(男女別、年齢区分別、定点医療機関診療科別)

	性器クラミジア症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0才	0	0	0	0	0	0	0	0
1~4才	0	0	0	0	0	0	0	0
5~9才	0	0	0	0	0	0	0	0
10~14才	0	0	0	0	0	0	0	0
15~19才	8	81	2	5	0	0	6	5
20~24才	17	141	3	18	2	6	12	15
25~29才	22	84	3	27	1	6	16	3
30~34才	16	44	2	16	9	8	6	1
35~39才	17	30	7	14	7	3	11	1
40~44才	12	11	5	15	3	3	5	1
45~49才	7	7	2	9	3	0	1	0
50~54才	2	3	2	8	0	0	1	0
55~59才	2	2	0	6	0	0	0	0
60~64才	1	0	2	7	0	0	1	0
65~69才	1	0	0	7	0	0	0	0
70才以上	2	0	0	6	1	0	0	0
産婦人科	13	285	5	114	4	21	13	23
泌尿器科	55	9	18	1	7	0	21	1
皮膚科	39	109	5	23	15	5	25	2
合計	107	403	28	138	26	26	59	26

STD 定点は産婦人科が多く、受診者の多くは女性である。従って、これらの4感染症の流行把握することは困難であると考えられるが、受診者の性別に偏りがないと考えられる皮膚科の報告例から類推した場合、性感染症における男女の罹患傾向が大きく変わるものではなかった。

謝辞

患者情報収集に尽力していただきました定点病院ならびに保健所の皆様に深謝します。

引用文献

- 1) 中嶋智子, 奥村真友美, 柳瀬杉夫. 2010. 2009年感染症発生動向調査(患者発生動向)-定点把握感染症. 京都府保健環境研究所年報, 55, 45-51.
- 2) 中嶋智子, 奥村真友美, 柳瀬杉夫. 2011. 2010年感染症発生動向調査(患者発生動向)-定点把握感染症. 京都府保健環境研究所年報, 56, 41-46.
- 3) IDWR 2012年第21号<注目すべき感染症>マイコプラズマ肺炎, 21, 7-9.